

## 大学図書館における情報リテラシー教育への参画

### 0. はじめに

#### 0.1 情報環境の激変

情報のデジタル化への収束； Everything on IP

情報のネットワーク流通

教育・研究環境の大きな変化

インターネット・検索エンジン以前/以降：人の情報探索行動の変容

→ 学生の情報行動の変化も当然

→ HP 閲覧に感動、HP 作成、Blog, Mixi, Twitter の参加者

要は、デジタル・キッズのデビューへの新対応が必要

参考資料 I.

#### 0.2 大学教育の変容

4年制大学への進学率：2009年に50%を超える。

大学の大量化 → 大学のユニバーサル化

背景：1980年代からのグローバル化の進展

大学教育への資源需要の拡大と経済成長の減速；基礎配分費の削減、  
競争的資金獲得競争

評価制度の導入、自律的 PDCA サイクルと評価疲れ？

大学間の連携促進 ← 大学のアイデンティティと戦略の明確化の必要性

学習困難者の進学

結果：学生の主体的な授業参加と自律的な学習への誘導 →

学習図書館機能の強化、ラーニング・コモンズ など

#### 0.3 「大学図書館の整備について(審議のまとめ)—変革する大学にあって求められる大学図書館像—」平成22年12月(科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会)

参考資料 II.

## 1. 大学図書館の利用者教育と情報リテラシー授業への参画—レビュー論文を参考に—

大学とその附置図書館「立ち位置」と今後の展開方向を、過去の数十年間の図書館の実践報告、研究発表などの文献調査、分析を通じて、探り、今後の課題と展望を考える。

○慈道佐代子「情報リテラシーと利用教育—大学図書館と公共図書館—」『図書館界』61(5), 2010.1, p.495-510.

- ・大学教育における図書館の役割
- ・・オリエンテーションと初年次教育
- ・・授業科目と授業の1コマ(一部)利用
- ・・教室での授業と日常的なレファレンス業務の関係
- ・・利用者教育と資料収集
- ・この2000年～2009年前半の約10年間を概観して、
- ・・第一の特徴は、情報リテラシー教育の実践面での取り組みが、大きく進展した時期
- ・・第二の特徴は、情報リテラシーは図書館が取り組むべき業務として定着した
- ・・第三の特徴は、図書館の業務として定着した現段階での評価すべき点と改善すべき点が、明確になっていることである。例：授業の「1コマ(一部)」利用
- ・・第四の特徴は、大学図書館は社会貢献という視点で...(中略)地域社会や公共図書館との連携をみることができた

○野末俊比古「大学図書館と情報リテラシー教育—「指導サービス」の意義と展開」所収：逸村裕，竹内比呂也編『変わりゆく大学図書館』勁草書房，2005，p.43-57.

- ・情報リテラシーの意味、日本での実践、今後の進め方への視点など。

○大城善盛「わが国の大学図書館における情報リテラシー教育に関する考察」『大学図書館研究』72, 2004.12, p.10-17.

- ・複数大学の実践例と評価、将来展望など。

○野末俊比古「利用者教育—「情報リテラシー」との関わりを中心に」『カレントアウェアネス』278, 2003.12, p.1-5.

- ・2000年から2004年までの文献を対象にレビュー。

○安藤友張「図書館利用教育・情報リテラシー教育をめぐる動向：1999-2001」『情報の科学と技術』52(5), 2002.7, p.289-295.

- ・情報リテラシー教育に関する記事を中心にレビュー(修士論文、研究報告等を含む)

○赤瀬美穂「情報リテラシーと利用教育」『図書館界』53(3), 2001.9, p.314-321.

- ・2000年以前の約10年間をレビュー。

## 2. 情報利活用教育—前史・継続そして関連も含めての3つの類型—

○図書館活用法, 情報探索法, etc.

伝統的図書館利用法

\*慈道ほか多数

○情報咀嚼法, 情報表現法, etc.

読み書きの基礎; 初等中等教育での実践例多数

○情報基礎, 情報処理入門, etc.原理, 基礎ツール機能, アプリケーション

情報屋さんの「教育」から、生涯学習講座、カルチャーセンターまで

でも、初等中等教育での情報リテラシー教育は、遅々としながらも進展している。

新学習指導要領: 小学校平成23年度、中学校平成24年度、高等学校平成25年度入学生から実施

・文部科学省『新学習指導要領・生きる力』

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/news-cs/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/news-cs/index.htm)

余談; あなたの携帯電話の使用法とデジタル・キッズとの相違に気付いていますか?

## 3. 図書館と計算センターの“統合”, “融合?”, “離婚”, “研究開発室設置”

組織再編の「意図」、時代に「背中」を押された?

累々たる「組織残骸?」 なぜ?

研究開発室の現状。実態は?

背景; 媒体型資料(コレクション所蔵)から、媒体型資料+情報アクセスへの変化

情報獲得ツール, 情報表現ツールとしての情報システム

背景; 社会の変容: 情報化社会から知識基盤社会へ—確固としないビジネスモデル

→ どうやら、クラウドテクノロジーを基盤にマルチデバイス、ワンコンテンツ・マルチユースへ展開

## 4. 滞在場所としての“図書館”から、ラーニング・コモンズへの関心・提案へ

ラーニング・コモンズという“場”

直訳すれば、学習の共有地; 共同学習環境の“場”とサポート体制の充実; 学習支援のためのサービス、資料・情報、設備を総合的にワンストップで提供する学習支援空間

○米澤、加藤ほか

資料・情報の境目なしの要求・提供の進行

資料・情報アクセスのサポート体制の充実が必要

But: OPAC : 図書と雑誌の書誌の意味違い、CiNII&検索エンジンなどの現実  
大学図書館の新動向 : リンクリゾルバ、横断検索、次世代 OPAC など

環境 : 柔軟な学習環境、ライティング・サポートまでも...

背景 ; 先行的には米国での図書館、計算センターの 24 時間オープン実態  
日本での「直訳的」導入は困難。

余談 : ラーニング・コモンズと高級インターネット喫茶の相違 ?

## 5. 学術機関リポジトリ (IR: Institutional Repository)

Open DOAR: Directory of Open Access Repositories

<http://www.opendoar.org>

Open Access Japan

<http://www.openaccessjapan.com/>

学術機関リポジトリ構築支援事業

<http://www.nii.ac.jp/irp/>

- ・量の評価/質の評価 ; なにが蓄積されているか、検索システムの充実は ?
- ・修士論文、博士論文の収集、電子的公開の制度整備、実効性
- ・大学全体の戦略の中での機関リポジトリの位置づけ

余談 : コンテンツとライブ、一日「学生のタベ」

## 6. 情報リテラシー教育と大学図書館の今後の課題、展望

大学の社会的立ち位置の再確認と図書館使命の共有

### 6.1 大学 ; 建学の精神、ミッション(使命)、戦略、経営計画

- ・大学の社会的な使命 : 個々の大学の「立ち位置」から
- ・誰に対する約束か ?

### 6.2 大学図書館のミッション(使命)、戦略、経営計画

- ・設置母体と附置施設としての図書館
- ・誰に対する約束か ? : 大学への約束、学生への約束(Promise)  
背景のステークホルダー : OB/OG の社会人、入学対象の高等学校
- ・使命 — 戦略 — 行動計画と PDCA のサイクル
  - ・長期戦略的計画と図書館(再生)3年計画との整合性
  - ・全国一律の「教育・研究のサポート」は疑問

But: 自己評価、他者評価、第三者評価、評価機構など < 評価文化疲れ > も...

But: 図書館を必要とする教育が前提 !

### 6.3 大学図書館経営と図書館専門職

- ・ 大学全体の動向把握と図書館の存在位置
- ・ 費用対効果の指数：
- ・ 大学の意思決定機構の構成員へのパブリシティング
- ・ 大学内パワーゲームへの参加

#### 6.4 大学図書館の利用者教育の課題

- ・ 大学全体の教育改革との連携、個々の授業との関係の点検、  
図書館としての戦略立案が肝要
- ・ 「一コマ授業」に対する大学全体の認知があるか？  
事務分掌上で、図書館の業務と位置づけがあるか？
- ・ 「授業」と「成績評価」は連動しているべき
- ・ 初年時教育だけでなく、セグメントされた層への組織的関与  
卒論ゼミ配属時、修士入学時 etc.

#### 7. さいごに

- ・ 社会パラダイムの変化
- ・ 情報探索、入手コストの低下
- ・ コミュニケーション・コストの低下

- ・ 海図のない世界へ

余談；あなたの給与、待遇は専任職員以外の方の「仕事ぶり」と比して正当と胸をはれますか？

## 参考資料 I デジタル・ネイティブ、ソーシャル・ネイティブ

1995 年	Win95
1998 年	Win98、ネットスケープ (ブラウザ)
1999 年	「i モード革命」 先行に「ポケベル」
2000 年	Win ミレニアム
2001 年	Win2000 以降、XP, Vista, 7, 8(仮称)
2004 年	グリー、ミクシィがサービス開始、「電車男」話題
2004 年末	au、「着歌フル」開始
2005 年夏	アップル、iTunes ストア、日本で開始
2006 年	東京ガールズコレクション開始 ニコニコ動画開始

付録： バズ用語？のいくつか

- ・「カワイイ(俯角)」と「萌え(仰角)」
- ・「腐女子」、ボーイズラブ(BL)
- ・「フリームアム」、「アイテム課金」、「プレミアム」 &AKB48
- ・集合知と 2 チャンネルの「祭」
- ・「タイムライン」、「リツイート」
- ・「カレログ」
- ・スマートフォンと WiMAX 対応

## 参考資料 II.

### 0.3 「大学図書館の整備について(審議のまとめ)—変革する大学にあって求められる大学図書館像—」平成 22 年 12 月(科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会)

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け
  - (1) 大学図書館の基本的機能
  - (2) 環境の変化と大学図書館の課題
  - (3) 大学図書館に求められる機能・役割
    - ①学習支援及び教育活動への直接の関与
      - ア. 学習支援
      - イ. 教育活動への直接の関与

(4) 大学図書館の組織・運営体制の在り方

2, 大学図書館職員の育成・確保

(1) 大学図書館職員の業務内容の変化を踏まえた大学図書館職員の育成・確保の必要性

(2) 大学図書館職員に求められる資質・能力等

(3) 大学図書館職員の育成・確保の在り方

余談：全体は、研究大学の研究図書館機能を前提とした論及？

### 参考資料 III.

1. 加藤信哉編訳『ラーニング・コモンズ基本論文集』(REFORM: Reengineering of the Functionalities of Research Libraries in the Digital Milieu), 2010.3.

「電子情報環境下において大学の教育研究を革新する大学図書館機能の研究」研究代表者 土屋 俊.

2. 電子書籍の利用と円滑化に関する検討会議『「デジタル・ネットワーク社会における図書館と公共サービスの在り方に関する事項」に係るまとめ』平成 23 年 9 月 1 日.

3.

===== <2011/10/5 発信 >

JLA メールマガジン 第 572 号

=====

#### ◆図書館界ニュース

○『「デジタル・ネットワーク社会における図書館と公共サービスの在り方に関する事項」に係るまとめ』に関する意見募集を開始

文化庁は、電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議がまとめた標記 について意見募集を行っている。10 月 14 日正午まで。

「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議」は昨年 11 月より、「知の拡大再生産」の実現及び「知のインフラ」へのアクセス環境の整備のための具体的施策の実現に向けた検討を行ってきた。具体的には国立国会図書館のデジタル化資料の活用方策を主要課題とし、国立国会図書館からの送信サ

ービスの実施、デジタル化資料の検索サービスの提供、デジタル化資料の民間企業者等への提供などを述べている。

さらに公立図書館等の役割として、所蔵資料のデジタル・アーカイブ化、電子書籍サービスの提供、公立図書館の整備などを挙げている。「…公立図書館等が実際に購入することで買い支えられている出版物も存在しており、こうした出版物は我が国の出版文化の豊かさの維持、発展に大きな役割を果たしているとともに、国民全体の知的水準の向上や、多様性豊かな文化の維持、発展にも重要な役割を果たしている。…知の集積と情報発信の地域拠点であるという意義に鑑み、引き続き、地域の実情に応じて公立図書館等に係る整備が図られることや、各館の特色を踏まえつつ、多様で豊かな出版物の収集に努めていくことが重要である。」との注目すべき指摘もされている。2010 年 6 月に出された、文部科学省、総務省、経済産業省による「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会 報告」では、

図書館はベストセラーの購入が多いなどの意見が記述されていたが、これを事実上否定するものである。

[http://www.bunka.go.jp/oshirase\\_koubo\\_saiyou/2011/digital\\_network\\_110922.html](http://www.bunka.go.jp/oshirase_koubo_saiyou/2011/digital_network_110922.html)

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=185000541&M>